

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00657

研究課題名(和文) 日本文化の対話的発展の比較文学的研究 世界のポップ・テキストをめぐって

研究課題名(英文) A Comparative Literary Study of the Dialogical Development of Japanese Culture:  
On Pop-Texts from Around the World

研究代表者

平石 典子(Hiraishi, Noriko)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：20293764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の文化テキストが海外の文化との相互刺激のもとに、グローバルな形で発展していくさまを比較文学の視点から精緻に分析・考察するものであった。検証の結果、日本のポップ・テキストの表現手法が、海外において新しい表現や、メディアやジャンルを超えて新たなナラティブの創出と関わっていることを明らかにした。また、文字情報以外の視覚や聴覚、触覚というものにも同時に訴えるポップ・テキストは、異なる分野を融合させた作品の生成にも貢献しており、文化の対話の一つの形式として様々な地域において文化の高級/低俗という枠組みを壊し、文化格差をも再編しながら、新しい価値観を生み出していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、グローバル化理論や翻訳理論、物語消費、データベース消費モデルなどを援用しながらも、日本のポップ・カルチャーが生んだテキストを触媒として、西洋近代を基盤に形成されてきたものを脱構築する新たな文化が海外でどのように生み出されているのか、というところに焦点を当てた研究であり、既存の内外の研究とは一線を画するものであった。ポップ・テキストが文化間の対話と発展にどのように貢献しているのかを解明した本研究の成果は、世界における日本文学・文化の定位と、現代文化における普遍とは何か、という問題の探求にもつながり、文学・文化研究に貢献するとともに、日本文化の発信力強化への提言ともなると考える。

研究成果の概要(英文)：From the perspective of comparative literature, this research aimed to analyze and examine in detail the development of Japanese cultural texts in a global manner through their mutual stimulation with foreign cultures. Through examination, it was found that the expressive techniques of Japanese pop texts are involved in creating new forms of expression that transcend media and genres to create new narratives in overseas contexts. In addition, it was found that pop texts that simultaneously appeal to senses beyond textual information, such as visual, auditory, and tactile experiences, contribute to the production of works that integrate different fields. They serve as a form of cultural dialogue, breaking down the framework of cultural hierarchies (high vs. low culture) in different regions, reshaping cultural disparities, and generating new values.

研究分野：比較文学

キーワード：比較文学 現代文学・文化 ポップ・テキスト 対話的発展 国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は、2017年度まで「日本現代文学・文化の世界展開の比較文学的研究—<ポップ>なテキストを中心に」という課題で研究分担者、研究協力者と研究を進めており、現代日本のテキストが世界にどう発信され、何を問いかけてきたのかを検証してきたが、研究を進める中で、こうしたポップなテキストが、世界において総合的・越境的なものとして新しい文化を創生し、文化の対話的発展に貢献していることが明らかになってきた。

文学・文化テキストの文化間の移動と変容や展開は、従来にはない規模で現代社会の日常となっており、文学の世界においても「世界文学」が提唱されるようになっていたが、インターネット環境の普及により、特に世界文化の同時性が顕著だったのがポップ・カルチャーの分野であった。学術界においても、2000年代には日本のポップ・カルチャーは文化のグローバリゼーションの中の一つのキープレーヤーと認識されていた（岩淵 2001, 2002, Allen and Sakamoto 2006, Tsutsui 2010 など）が、申請者グループが2017年度までの研究を通して明らかにしたことは、それは単に現代日本のポップ・カルチャーが「エキゾチック」で「クール」なものとして受け入れられ、世界の消費者を魅了している、という意味ではないということであった。フランスのアーティストがNYをデザインしたポップなポストカードに芭蕉の句が添えられる（Air France 機内誌 Magazine 231号、2016年7月）例などは、日本では「古典」とされるテキストが時間と空間を飛び越えて、隔絶された地域で新たなポップ・テキストを構成していることを示すものである。こうした点に改めて注目し、研究を進めることの重要性が浮かび上がってきた。

このように、日本のテキストが触媒となり、世界各地の文化と対話的関係を築きながら、新しいグローバルなポップ・テキストが出現しつつあったことをふまえ、本研究では、日本と世界の文化間の対話の中で新たな価値・形態を得たものとしての世界文化におけるポップ・テキストに着目し、テキストの精緻な分析と考察からその実体を究明し、新しい文化の実体を明らかにすることの必要性を確信するに至った。

## 2. 研究の目的

本研究は、総合的・越境的な文化活動の記録としてのポップ・テキスト（主に日本から発信されたポップ・カルチャーの中で生成されたテキスト。マンガやアニメといったメディアと不可分の文学やアート、ファッションなども含む）が、現代世界の中で、文化的対話を喚起しながらどのような新しい文化を構築し、その発展に貢献しているのかを解明することを目的とした。日本の文化テキストが海外の文化的文脈の中で形を変え、新たな価値や文化を生み出す様相を手掛かりとして、西洋近代を基盤に形成されてきたものを脱構築する新たな文化がどのような形をとりつつあるのかを比較文学の視点から精緻に分析・考察し、検証する本研究により、高級/大衆文化という二元論的な枠組みを問い直し、グローバル化する世界中で並行して現れつつある、新しいポップ・テキストのダイナミズムを明らかにすることを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究は、メンバーと研究協力者による諸地域のテキスト渉猟及び調査・共同研究によって進められ、それまでの研究の中で明らかになった、流通や翻訳・翻案の過程でのテキストの変容をふまえ、日本のポップ・テキストが異文化の中に根付くことによる新たな文化生成の事例を収集し、詳細な分析を加えた。その際、現地文化にアメリカ合衆国発のポップ・カルチャーと日本発のポップ・カルチャーが混淆している地域の事例研究を行うこととし、欧州、ロシア（及び旧ソ連地域）、北米、東南・南アジアを主な調査対象地域とした。北米地域を平石・ヨコタ村上、欧州地域を平石・ヨコタ村上・山中、ロシア、旧ソ連地域をヨコタ村上・加藤、東南・南アジアを平石・センが担当し、それぞれの地域の研究協力者や情報提供者（実作者を含む）と、図書館、書店、イベント会場などで調査・研究を進めた。また、上記対象地域に中東（山中）の状況調査を加えることによって、研究に比較文学的な視野の広がりを持たせた。調査結果をまとめていく際は、下記の2点を研究課題の大きな柱として設定した。

研究課題項目 (1) メディア・ジャンルの対話と新文化の創出

研究課題項目 (2) 異分野との融合

## 4. 研究成果

本研究は、日本の文化テキストが海外の文化的文脈の中で形を変え、新たな価値や文化を生み出す様相を手掛かりとして、世界の現代文化が相互に刺激し合いながら、グローバルな形で発展していくさまを比較文学の視点と手法を用いて精緻に分析・考察するものであった。対象地域におけるさまざまな事例の収集と検証の結果、研究課題項目 (1) 「メディア・ジャンルの対話と新文化の創出」および研究課題項目 (2) 「異分野との融合」について、以下のようなことが明らかになった。

## 研究課題項目 (1) メディア・ジャンルの対話と新文化の創出

マンガ・スタイルの受容による、海外でのコミック描写の変容の指摘や、その様相などについてはすでに内外の先行研究が明らかにしていた部分もあったが、本研究は、日本のマンガにおける表現手法が海外のコミックに影響を与えた、という指摘にとどまらず、新しい表現を生み出していることを明らかにした。日本のマンガにおける擬音語や擬態語の音やデザインが海外の読者に伝播する中で、クリエイターを刺激し、地域言語にはもともと存在せず、かといって日本語をそのまま使うわけでもない新たな擬音語・擬態語や、カタカナのように見えるアルファベット表記、といったものが複数の地域のコミック（特にマンガ・スタイルのコミック）で出現し、それぞれの地域で共有されつつあることなどは、その顕著な例である。擬音語・擬態語の事例研究からは、このような動きが、メディアやジャンルを超え、現代文学や現代美術の分野での新たなナラティブの創出とも関わっていることも明らかになった。また、テキストの精読とその分析を通して、ポップ・テキストにおける「翻訳」という営為が、文学作品の翻訳などとは異なる目的を持つ場合があることも明らかになり、異化 (foreignization) 方策に則った翻訳手法のさまざまな事例を収集することができた。翻訳学におけるポップ・テキストの重要性とその位置付けの必要性を指摘したことは、重要な成果であると考えている。

## 研究課題項目(2) 異分野との融合

文字情報以外の視覚や聴覚、触覚というものにも同時に訴えるポップ・テキストは、異なる分野を融合させた作品の生成にも貢献している。本研究課題項目では、ポップなテキストが、文化の対話の一つの形式として世界の様々な地域のアートやファッションの世界で生み出すものに着目し、事例の収集と分析を行った。その結果、日本のポップ・テキストが、東南アジアでは日常的なレベルでのアート（雑貨や食器のデザイン、菓子等のパッケージデザインも含む）やリアル・クローズに多く取り入れられている状況と、著作権の遵守について疑わしい事例の多さも含め、カタカナで表記されてはいても、表現されているのは中国のキャラクターである、といったように、それが必ずしも「日本発」であることを意味しなくなったことが明らかになった。一方で、欧州や北米においては、とりわけファッション業界においてポップ・テキストの重視の傾向があることが明らかになった。2003年に Louis Vuitton が村上隆とのコラボレーションをコレクションで発表して以来、「ハイ・カルチャー」を構成するファッションブランドがこぞってポップ・テキストを含むアートを組み込んだコレクションを発表する中で、2018年春夏コレクションでは Prada が日本のオノ・ナツメも含む 9名の女性コミックアーティストとコラボレート、Comme des Garçons は高橋真琴の描く少女たちの図像を洋服に大胆に取り入れた。2017年末には Gucci がイラストレーター、ヒグチユウコを起用している。こうした動きと、実際にポップ・テキストが取り入れられた作品の分析考察から、ハイブランドのデザインは、よりストリート色の強い Dsquared2 や GCDS といったブランドにおけるコミックプリントデザインとも呼応しており、文化の高級/低俗という枠組みを壊し、それぞれの地域における文化格差をも再編しながら、新しい価値観を生み出しつつあることを明らかにした。

なお、本研究の成果発信については、学会や研究会での発表で、海外の研究者と議論を交わし、研究を深めていくことを重視した。本科研が主催した国際ワークショップ “Graphic Narratives in Translation” 及び費用の一部を負担した公益財団法人中島記念国際交流財団助成事業国際シンポジウム「ポップ・テキストのカー日本文化の対話的発展に向けて」では、イタリア、英国、中国、トルコ、日本のグラフィック・ナラティブ研究者、翻訳者、実作者が集い、実り多い議論を行うことができた。また、メンバーがそれぞれ参加し、研究発表を行った国際学会の他に、国際比較文学学会 (ICLA) の研究部会 Research Committee on Comics Studies and Graphic Narrative が関わる世界大会や国際学会（第22回、23回 ICLA 世界大会、英国比較文学学会 (BAJS) 2018年大会、International Conference in Comparative Literature “Behind the Masks,” CLAM2020, International Conference “Visual Depictions of the American West,” アメリカ比較文学学会 (ACLA) 2022年大会）、ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS) 第16回大会、東アジア翻訳学会 (EATS) 第3回、4回大会などの大規模な学会で継続的にパネルを組んだ。また、アジアでの成果発表については、タシケン国立東洋学大学での国際シンポジウム「文明のクロスロード」における複数メンバーでの継続的な発表に加え、インドネシアでの学会にも参加し、より広い地域の研究者と研究交流を持つことができた。ロシアにおいても研究会を開催予定であったが、Covid-19のパンデミックとその後のウクライナ侵攻により開催が叶わなかったことは残念である。

研究成果の出版については、メンバーがそれぞれ出版、寄稿した日本語・英語・フランス語・ドイツ語・ロシア語の書籍や研究論文の他に、メンバーの論文を中心とした英語論集の出版計画を進めており、2023年度中の出版を目指している。

## 参考文献

岩渕功一『トランスナショナル・ジャパニ—アジアをつなぐポピュラー文化』岩波書店、2001。  
Koichi Iwabuchi. *Recentering Globalization: Popular Culture and Japanese Transnationalism*, Durham: Duke University Press, 2002.

Matthew Allen and Rumi Sakamoto (eds.). *Popular Culture, Globalization and Japan*, London and New York: Routledge, 2006.

William M. Tsutsui. *Japanese Popular Culture and Globalization*, New York: Columbia University Press, 2010.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 平石典子	4. 巻 145
2. 論文標題 現代文学の家族表象における文化的文脈と〈内面の共同体〉 重松清「カレーライス」をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較文化	6. 最初と最後の頁 191-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiraishi Noriko	4. 巻 10
2. 論文標題 Japanese sound-symbolic words in global contexts: from translation to hybridization	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 F1000Research	6. 最初と最後の頁 1024-1024
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.12688/f1000research.55546.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sen, Raj Lakhi	4. 巻 21
2. 論文標題 パンデミックの言説—インドのパンデミック「ポップテキスト」における「スーパーヒーロー」の出現と多様性をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 171-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiraishi, Noriko	4. 巻 1
2. 論文標題 The Role of Illustrated Books in Contemporary Literature	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Yaponshunoslar Xalqaro Forumi Ilmiy To' Plam	6. 最初と最後の頁 132-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山中由里子, 五十嵐大介, 長谷川朋宏, 西田清徳	4. 巻 172
2. 論文標題 特別展『驚異と怪異—想像界の生きものたち』関連公開座談会 自然界から想像/創造する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 84-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤百合	4. 巻 52
2. 論文標題 小林実著「神西清の散文問題」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究	6. 最初と最後の頁 207-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiraishi, Noriko	4. 巻 12
2. 論文標題 Translating Onomatopoeia in Modern Japanese Literary Texts: From Poetry to Manga	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Crossroads of Civilisations: In Search of a Paradigm of Pluralism	6. 最初と最後の頁 91-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ヨコタ村上孝之	4. 巻 12
2. 論文標題 現代日本文学におけるパイリンガリズムについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Crossroads of Civilisations: In Search of a Paradigm of Pluralism	6. 最初と最後の頁 589-597
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yokota-Murakami, Takayuki	4. 巻 54:1
2. 論文標題 Translation and Comparative Literature: A Theoretical Crossroad of Cartesianism, Japanese Linked Poetry, and Postcolonialism	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pacific Coast Philology	6. 最初と最後の頁 56-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石典子	4. 巻 9
2. 論文標題 嶋立沢の情景 翻訳からみる西行の歌	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 228-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Yuri,	4. 巻 41
2. 論文標題 &laquo; &raquo; ; &raquo; )&raquo;	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育論集	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kato, Yuri, Abyiakaia, Olesia	4. 巻 10
2. 論文標題 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 195-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計49件(うち招待講演 8件/うち国際学会 45件)

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Depictions of Taiwan during the Japanese Colonial Period: Challenges of Taiwanese Graphic Narratives and their Reception in Japan
3. 学会等名 American Comparative Literature Association (ACLA) 2022 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Japanese Dialect as 'Role Language': Politics of Translation in Literary Works
3. 学会等名 4th Conference of the East Asian Translation Studies (EATS4) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Female Bodies in Graphic Narratives: on Sexuality and Pregnancy
3. 学会等名 23rd Congress of the International Comparative Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 Music as a Supraprimary Language: Lev Tolstoy's Ostensible Appreciation of Japanese Songs
3. 学会等名 4th Conference of the East Asian Translation Studies (EATS4)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Doubts and Resistance to Gender/Sexual Norms: Female Voices in Japanese Literature in the 1990s
3. 学会等名 International Conference of Gender, Culture and Society (ICGCS) 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Madam and Whore: Girls in American West in the Female Manga from 1980 to 2000
3. 学会等名 International Conference Visual Depictions of the American West (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 The Representation of the “American” West in the Contemporary Japanese Comics
3. 学会等名 International Conference Visual Depictions of the American West (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kato, Yuri
2. 発表標題 Africa without African(s): Absent Colonialism and Friendship of Animals in Russo-Japanese translations of “Doctor Dolittle”
3. 学会等名 4th Conference of the East Asian Translation Studies (EATS4) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamanaka, Yuriko
2. 発表標題 The Epidemiology of Amabie: Prophetic Creatures in Japanese Folklore and Popular Culture
3. 学会等名 23rd Congress of the International Comparative Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 抗体としてのモンスター : 表象の疫学から解くアマビエ現象
3. 学会等名 日本万博博覧会記念公園シンポジウム2022「人類よ、どこへ行く?ポストコロナの世界を占う: Quo vadis, homini?」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Female Writers and Infidelity: 'Unfaithful Wives' around 1910 in Japanese Literature
3. 学会等名 16th International Conference of European Association for Japanese Studies(EAJS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Hybrid Language in Graphic Narratives: Onomatopoeia in the Digital Age
3. 学会等名 CLAM 2020 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 The Role of Illustrated Books in Contemporary Literature
3. 学会等名 International Forum of Japanese Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Fin-de-Meiji as Fin de Siecle: D' Annunzio and Modern Japanese Literature
3. 学会等名 MLA 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平石典子
2. 発表標題 比較文学者からみた文学研究交流 東アジアから東南アジアへ
3. 学会等名 東アジア若手研究者合同研究フォーラム「依存と融合：日本研究の新たな展望」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 Incest Taboo in Meiji Literary Discourse: The Voice of the (Male) Writer and the the Voice of the Niece in Shimazaki Toson's Vita Nova
3. 学会等名 16th International Conference of European Association for Japanese Studies(EAJS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 Transcodification of Critical Terms: Character/seikaku/xingge from Chinese Classical Writings via Modern Japanese Literature to Contemporary “Light Novels”
3. 学会等名 CLAM 2020 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yamanaka, Yuriko
2. 発表標題 The Museum as a Re-enchanted Forest?: Magical Thinking in Museum Space
3. 学会等名 REDIM (Dynamiken religiöser Dinge im Museum) Online Colloquium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sen, Raj Lakhi
2. 発表標題 ReDiscovery of 'Adultery' as a Neta: Stumbling between 'Natural and Criminals Laws' in Meiji Literature
3. 学会等名 16th International Conference of European Association for Japanese Studies(EAJS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Translating Onomatopoeia in Modern Japanese Literary Texts: From Poetry to Manga
3. 学会等名 文明のクロスロード12「中央アジアと日本における文化的・社会的多元性と共生」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平石典子
2. 発表標題 混成する擬音語 グラフィック・ナラティブの擬音語・擬態語をめぐって
3. 学会等名 国際ワークショップ Graphic Narratives in Translation (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平石典子
2. 発表標題 日本近現代文学と擬音語・擬態語
3. 学会等名 東アジア若手研究者フォーラム「令和時代の日本研究 平成から令和へ」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Autointoxication in Manga and Anime: 2-D Beauty and the real World
3. 学会等名 3rd European Association for Japanese Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Hannya Mother and Iguana Daughter: Mother-Daughter Relationships in Japanese Girls' Comic
3. 学会等名 22nd Congress of the International Comparative Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ヨコタ村上孝之
2. 発表標題 現代日本文学におけるバイリンガリズムについて
3. 学会等名 文明のクロスロード12「中央アジアと日本における文化的・社会的多元性と共生」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 The Emergence of New Sound-Symbolic Words: Indonesian Youth Culture and the Translation of Manga
3. 学会等名 3rd Conference of the East Asian Translation Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 Dostoevskian Polemics on the True Nature of Evil in /Deathnote/
3. 学会等名 22nd Congress of the International Comparative Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 Bilingualism in Manga
3. 学会等名 3rd Conference of the East Asian Translation Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 珍獣・靈獣・幻獣・怪獣 人はなぜモンスターを想像するのか？
3. 学会等名 みんなくゼミナール
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato, Yuri
2. 発表標題 Frailty of War Widows in Law and in Society - Reading "Chasen-gami" (1906?) by Futabatei Shimei
3. 学会等名 22nd Congress of the International Comparative Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato, Yuri
2. 発表標題 Why to Retain Foreign Elements in Translated Texts of Japanese Literature in Russia?
3. 学会等名 3rd Conference of the East Asian Translation Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤百合
2. 発表標題 ロシアの言語文化について
3. 学会等名 日英言語文化学会第15回大会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sen, Raj Rakhi
2. 発表標題 Modern and Contempor 'Self-reassurance and 'Enlightenment': Translating Japanese Texts into Indian Languages'
3. 学会等名 The 3rd Conference of the East Asian Translation Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平石典子
2. 発表標題 <内面の共同体>と共感 日本現代文学における家族描写をめぐって
3. 学会等名 日独通訳セミナー(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Ito Hiromi as an Eye-Opener: the Provocative Agency of the Female Body
3. 学会等名 Language-Gender-Transmigration: A Workshop with Ito Hiromi about her life and writing (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平石典子
2. 発表標題 村上春樹の短編と世界の想像力
3. 学会等名 公益財団法人中島記念国際交流財団助成事業国際シンポジウム「ポップ・テキストの力 日本文化の対話的発展に向けて」
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Under a Curse of being Busu: Cosmetic Surgery in Contemporary Japanese Fiction
3. 学会等名 International Conference in Comparative Literature 'Behind the Masks' (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Japanese Literature in the Nineteenth-Century Europe
3. 学会等名 International Symposium "Tsukuba Day in Pula" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Deconstructing the Boundary Between High and Mass Literature: Challenges of Words and Images in Contemporary Texts
3. 学会等名 GeM 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 Depicting False Pregnancy in the 21st Century: The Avant-Garde Imagination of Yumiko Shirai's Wombs
3. 学会等名 2018 British Association for Japanese Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiraishi, Noriko
2. 発表標題 A Renaissance of Imagery in Modern Japan
3. 学会等名 9th Chinese Cultural Renaissance Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 Plastic Surgery and its Relevance to the Modern Idea of 'Nature': Responses to comics Okazaki Kyoko's Helter Skelter and Tezuka Osamu's Black Jack
3. 学会等名 International Conference in Comparative Literature 'Behind the Masks' (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 Abortion in Modern Japanese Literature: Romanticization and Secularization
3. 学会等名 2018 British Association for Japanese Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yokota-Murakami, Takayuki
2. 発表標題 The Cute, Flat, and Unreal: the Sexual Politics of Japanese and the East Asian Animation and Its Polemics against Euroamerican Comics.
3. 学会等名 International Conference of the Study on China, Japan, and Mongolia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤百合
2. 発表標題 日本文学への変容 明治中期の翻案事情
3. 学会等名 日本語日本文化フォーラム2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato, Yuri
2. 発表標題 -
3. 学会等名 バルチックフォーラム20周年記念国際コミュニケーション学会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato, Yuri
2. 発表標題 Adaptation: Necessary Process of Perceptron from an Another Culture
3. 学会等名 International Symposium "Tsukuba Day in Pula" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sen, Raj Lakhi
2. 発表標題 Undoing the Empire of Aesthetical Surgery and 'Otherness': Arguing Puchi-zeitaku (Petit Luxury) and Patriotism in Japanese Fiction and Pop-text
3. 学会等名 International Conference in Comparative Literature 'Behind the Masks' (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sen, Raj Lakhi
2. 発表標題 Law and Ethics: Adapting 'Edo' & Adoption Law in Historical Fiction
3. 学会等名 International Symposium "Tsukuba Day in Pula" (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Francoise Lavocat, Charlotte Krauss, Noriko Hiraishi 他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Presses Sorbonne Nouvelle	5. 総ページ数 400
3. 書名 L'Art sequentiel et les catastrophes: Bande dessinee, manga, roman graphique	

1. 著者名 Aizawa Keiichi, Hiraishi Noriko他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Iudicium	5. 総ページ数 359
3. 書名 Gemeinsame Herausforderungen: Ein aktueller Blick auf den deutsch-japanischen Wissenschaftsaustausch anhand von Beiträgen aus den Ringvorlesungen 2021 und 2022	

1. 著者名 沼野充義、沼野恭子、平松潤奈、乗松亨平、加藤百合他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 306
3. 書名 ロシア文化 55のキーワード	

1. 著者名 山中由里子編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 240
3. 書名 驚異と怪異 想像界の生きものたち	

1. 著者名 沼野 充義、望月 哲男、池田 嘉郎（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 886
3. 書名 ロシア文化事典	

1. 著者名 平石典子編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑波大学	5. 総ページ数 79
3. 書名 公益財団法人中島記念国際交流財団助成事業国際シンポジウム「ポップ・テキストの力 日本文化の対話的発展に向けて」報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	ヨコタ村上 孝之  (Yokota-Murakami Takayuki)  (00200270)	大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・准教授    (14401)	
研究分担者	山中 由里子  (Yamanaka Yuriko)  (20251390)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授    (64401)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	SEN RAJ LAKHI  (Sen Raj Lakhi)  (20795611)	同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員    (34310)	
研究分担者	加藤 百合  (Kato Yuri)  (50326815)	筑波大学・人文社会系・教授    (12102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	モーロ ダニエラ  (Moro Daniela)		
研究協力者	ラ・マルカ パオロ  (La Marca Paolo)		
研究協力者	デヴィ リマ  (Devi Lima)		
研究協力者	アンワル フィティヤニ  (Fithyani Anwar)		
研究協力者	イドゥルス  (Idrus)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	菅野 怜子  (Sugano Reiko)		
研究協力者	セニーニ エリサ  (Segnini Elisa)		
研究協力者	スビアルカ マイケル  (Subialka Michael)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Graphic Narratives in Translation	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 公益財団法人中島記念国際交流財団助成事業国際シンポジウム「ポップ・テキストの力 日本文化の対話的発展に向けて」	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
				他1機関
イタリア	University of Torino	University of Catania	Ca' Foscari University of Venice	
インドネシア	Andalas University			
ウズベキスタン	Tashkent State U of Oriental Studies			
英国	University of Glasgow			
米国	University of California Davis			